

With

特集

岡山県男女共同参画推進月間2016 開催報告



表紙写真

- 1 NPO法人「さんかくナビ」などが「ときめきカフェ&おしゃれなバザー」を開催。売り上げはDV被害者支援に充てられました。右下は、バザーで並べられたオシャレでかわいい小物たちです。
- 2 登録団体やきらめきプラザ入居団体から寄せられた男女共同参画社会へ向けてのメッセージカードが窓にぎやかに飾り、月間に花を添えました。
- 3 11月13日に行われた第2回おかやまマラソンの応援で男女共同参画推進月間をPRしました。
- 4 女性参政権行使70年を記念して、岡山県婦人問題懇話会、世界女性会議おかやま連絡会と共催で、(公財)市川房枝記念会女性と政治センターのご協力を得て「日本の女性参政権のあゆみ」パネルを展示しました。

男女共同参画推進月間2016

～みんなイキイキ男女がともに輝く“おかやま”～

11月は岡山県男女共同参画推進月間です。記念講演に加えて、今年も登録団体が企画した講演会や活動パネルの展示、バザー、意見交換会などが行われ、多くの参加者でにぎわいました。

記念講演 2016年11月12日(土)



仕事と家庭を両立しながら第一線で活躍してこられた村木さん。詳しいデータをもとに「女性活躍」の現状と課題を分かりやすくお話しいただきました。苦労した経験をユーモラスに語られる姿に「あきらめない」生き方のヒントが得られた講演会でした。

演題 「誰もが生き生きと働ける社会の実現を目指して」

講師 ^{むらき あつこ} 村木 厚子 さん (前厚生労働事務次官)

少子高齢社会と社会保障

戦後すぐの昭和20年代前半はたくさんの子供が生まれました。いわゆる団塊の世代です。しかし、その子どもたちである団塊ジュニアはそろそろ子どもを産み終える40歳代に突入しており、この後は親になる世代の人口が減少します。社会保障を若い人へも広げることで子どもが増えれば、将来の高齢者を支えることにつながります。年金、医療、介護の財源となっていた消費税は、8%になってから子育て支援にも充てられていますが、10%までは上げないと追いつかない状況です。

生産年齢人口が減りつつあるものの、「高齢者」と呼ばれる65歳はまだまだ若く、発揮されていないパワーがあると思います。「生涯現役」が少子高齢社会を乗り切る一つの力ギとなるでしょう。

女性の活躍と家事・育児

2016年の日本のGGI(*1)は144カ国中111位です。女性の経済活動や政治への参画度が低いのが順位下降の原因です。結婚・出産で2人に1人が離職し、女性の労働力率は依然としてM字カーブ(*2)を描いています。育児休業や短時間勤務などの制度だけではなく、職場全体の勤務時間が重要です。

共働き世帯は増加傾向にありますが、6歳未満の子どもがいる家庭の男性の1日あたりの家事・育児の平均時間は、日本の場合約1時間、外国は約2～3時間。夫婦で協力して子育てをする家庭ほど、2人目以降の子どもを持つ割合も増えています。

子連れでチャレンジした時代

男女平等といわれていた国家公務員ですが、勤務一日目に係長から「君にお茶くみをお願いしたい」のひとこと。子どもが生まれてからはまたひと山。よい保育ママに巡りあったり、島根に子連れで転勤した時は、「女性課長が子連れで赴任してきた!」とびっくりされましたが、周囲の協力を得て働き続けることができました。娘が4歳の時には1ヶ月の海

外出張の話が持ち上がり、勢いで「行きます!」と言いました。子育て中でどうせ駄目だと思わず、声をかけてくれた上司には感謝しています。

男性も自活していけることが必要です。約半年間拘留された時、主婦が家を空ける大変さを心配してくれる人がいましたが、夫は「今までと何も変わりませんから」と一言。夫が自立していてよかったと思います。

後輩へのアドバイスと心が折れない4つのコツ

仕事、子育て、介護等悩みは多いですが、長い仕事人生の中でずっとそれが続くわけではありません。その時の100%でいい。責任を持って階段を上ると見えてくる世界が変わります。後輩には、「新しいことをやれるチャンスがあれば引き受けなさい」と言っています。専門外のことも経験しておく、キャリアを重ねた時に幅が広がります。

私自身が頑張った理由は4つあります。1つ目は好奇心。2つ目は苦労した経験が役にたったこと。3つ目は気分転換が上手なこと。4つ目は食べて寝られたことです。近くにいる家族や友人の支えと医療や介護のプロの支えがあれば、少子高齢社会も怖くないと思います。

*1 GGI ……………ジェンダーギャップ指数：世界経済フォーラムが毎年公表する各国における男女格差を測る指数。

*2 M字カーブ……女性の労働力率が結婚・出産期に低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するというグラフの曲線。



男女共同参画推進月間2016 ウィズセンター 登録団体主催事業

(一社) 日本女子大学教育文化振興 10月30日(日)
桜楓会 岡山支部・倉敷支部

リケジョ 元祖理系女を輩出した 日本で最初の女子大学

連続ドラマ「あさが来た」でも大変話題になった母校の歴史を、改めて紐解く講演会を企画しました。女子大、家政学と聞くとなかなか科学と結びつかない方も多いと思いますが、今回、化学科教授、大学学長と、長く



日本女子大学で活躍してこられた**蟻川芳子先生**から、創立者 成瀬仁蔵と、それを支え新しい道を拓いた**広岡浅子**を中心に、分かりやすくお話しいただきました。

家政学を構成するものを自然科学、精神科学、社会学と見極め、女性の教育に科学の目を取り込んだ成瀬仁蔵の



志の高さに心打たれ、その思いに応え後に続いたパイオニアの存在をととても誇らしく思いました。あまり目立たなくても「私たちも頑張ってるよね」と思える貴重な時間でした。

イースト岡山女性ネットワーク & メンズリブフォーラム岡山 11月5日(土)

ホワイトリボンキャンペーンの輪を 岡山にも広げよう

非暴力男子を増やそう!! ~女性に対する暴力をなくすために 男たちにできること~

女性への暴力は人権侵害であるとの認識からホワイトリボンをつけることで、「非暴力」を宣言し、それは加害者も被害者も生まないことに繋がります。誰もが参加できる支援=ホワイトリボンキャンペーンの輪を岡山でも広げたいと思い、開催した講演会です。

男性学に出会い、男性相談の草創期から活動してきた**中村彰さん**を講師にお招きし、男性が本音で語る場を作ってきた経験から男女共同参画に取り組む活動についてお話いただきました。夫婦の会話のコミュニケーションワークを参加者で行い、言葉や会話の大切さを実感しました。寸劇の様な軽妙なやりとりで会場から笑いと拍手が起きました。



CAPおかやま 11月6日(日)

社会的養護の必要な子どもとの 生活の中で大切にしたいこと

昨今、児童相談所での児童虐待の相談受案件数も、社会的養護の必要な児童数も年々増加しています。トラウマを抱えた子どもたちとの関わり方を山梨県立大学の**西澤哲教授**をお迎えして、お聴きました。社会的養護の中で暮らす子どもたちは、虐待やネグレクトによりトラウマの再現性やアタッチメント関連障がいなどに起因した様々な困難を抱えています。その回復は、一人ひとりが個別の存在として認められ、話を聴いてもらい、出自を含め自分のことを知ること、様々な想いを養



育者に語る事ができ、愛情欲求が満たされることで、はじめて始まります。そもそも、愛情欲求はすべての人が持っているもの。私たちがわが子を含め、人に対してどう関わるべきかを考えさせられる時間となりました。

14期岡山県女性のバス 11月26日(土)

家族とはじめる終活 ~愛する人へありがとう ツナガル想い~

最近、関心が高まっている「終活」。たくさんの方の参加のもと、上級終活カウンセラーの**川上恵美子さん**を講師に招き、老前整理、遺品、葬儀・お墓など人生の終焉を迎えるために必要な事柄についてお話をしていただきました。



〇×カードを使ったワークでは「自分の思いを託せる人がいる」「びんびんころりて逝きたい」などの設問に、改めて自分と周りの人との関係性を再認識することが出来ました。講師が実際に相談を受けた事例からは、家族へ想いを伝えておくことの大切さを感じた人もいたのではないのでしょうか。



終活に関する絵本の紹介もあり、「死」というデリケートな問題について真剣に考え、現在の自分の生き方も見つめ直すことができました。

おかやま女性国際交流会 11月30日(水)

世界の平和と女性の力

あまり馴染みのない「国連ユニタール」ですが、研修を専門とする機関として1965年に設置。約50年にわたって、世界中で外交・経済発展・環境・平和・復興といった分野において研修を行っており、本部はジュネーブにあります。2003年に開設された広島事務所から、**隈元美穂子事務所長**をお迎えし、最新の世界情勢をお聞きました。



紛争を伝えるメディアの報道は概して誇張ではなく、『世界の兆候として、平和は下降傾向にある』という国連の客観的判断には、予想していたこととは言え、ショックを受けました。平和は自然にもたらされるものではなく、私たちの努力で生み出していかなければならないとの思いを強くしました。

時代を超えてともに歩む私たち

～女性参政権行使から70年これまでとこれから～

主催：岡山県婦人問題懇話会 開催日：11月26日(土)

日本で女性が初めて参政権を行使して70年になる年にあたり、政治分野での女性参画を考える企画を実施しました。

第1部：講演

「婦人参政権と犬養木堂」

板野忠司犬養木堂記念館館長から、さまざまな歴史を踏まえて、犬養元首相が女性の参政権に大変尽力された話をお聞きました。



第2部：女性県議会議員との意見交換

「第4次おかやまウイズプラン」を推進していくための方策を7名の女性県議の皆様とともに考えました。自己紹介を含め各々の立場から、とても前向きで力強いご発言がありました。初めての企画でしたが、大変好評でした。



また、ウイズセンターと共催で「日本の女性参政権のあゆみ」パネル展示も開催しました。

登録団体交流会

10団体が参加し、受付、進行など交流会運営スタッフの皆さんのご協力で和気あいあいとした交流会となりました。

昼食をとりながらの歓談の後、それぞれの団体から活動内容のPRや、団体どうしのつながりの大切さなど、日頃の思いを語り合いました。

交流プログラムのアトラクションは「エイジングケアではつらつと～自分でできる簡単なツボ押しをマスターしよう!」。ヘッドスパ&フェイスセラピストの方に来ていただき、肩こりや便秘解消に効くツボ、美容に効果的なツボなどを教えていただきながら、ツボを押さえた時の「痛気持ちいい」感覚を味わいました。



最後にみんなで「あなたとわたしのウイズソング」を合唱して閉会となりました。

【登録団体交流会 参加団体】

- 岡山県交通安全母の会連合会
- 岡山県地域ピーチの会
- 岡山県退職女性教職員の会
- 邑久ライフフォーラム
- 岡山市退職女性教職員の会
- 笠岡女性セミナー
- (一財)岡山県母子寡婦福祉連合会
- 14期岡山県女性のバス
- おかやま女性国際交流会
- フォーラム2000まび

登録団体パネル展示

今年は6団体が力作揃いのパネルを展示しました。写真やイラストなどでの活動紹介や、各団体の主催イベントのチラシが置いてあったりして、参加してみようと思われた人もいたのではないのでしょうか。一か月間の展示で月間を盛り上げていただきました。



出展団体

- おかやまエコマインドネットワーク
- 岡山県退職女性教職員の会
- 岡山県栄養改善協議会
- 岡山県婦人問題懇話会
- あいネット倉敷
- 岡山友の会

「情報誌With」70号に寄せて

岡山県男女共同参画推進センター（ウイズセンター）の情報誌「With」が70号を数えた。多少ともその誌面作りに関わってきたひとりとして感激はひとしおである。

創刊号はよく覚えている。平成11年5月に出た。ウイズセンターがその年4月1日にオープン、すぐに「With」が編まれた。4頁と“細身”ながら高揚感にあふれていた。表紙はウイズセンターが入居したクレドビルの雄姿、開所式のテープカット写真が並び、人目をひいた。頁をめくれば、センターはこんなところ、すぐに理解できた。

以来、18年の時を刻んで節目の「70号」となった。「With」を読み直し、岡山県の男女共同参画社会づくりが半端でないことが分かる。とは言い、道遠し。ウイズセンターと「With」を応援する。がんばろう。



岡山県男女共同参画推進センター運営委員会委員長
池田 武彦 さん

2年連続で「武蔵大学学生が選ぶベストティーチャー賞」を受賞された田中俊之さんに男性学の視点から男性の「生きづらさ」についてご自身の経験を交えて、楽しくお話ししていただきました。



演題 「男が働かない、いいじゃないか!」～男性学の視点から考える"男性の生きづらさ"とは～

講師 たなか としゆき 田中 俊之 さん (武蔵大学社会学部 助教)

男性の働き方と自殺問題

男性が抱えている最大の問題は「働かしくない」現実であり、裏を返せば「働いていればいい」という意識です。男性が無職だと偏見を持たれ、さらには長時間労働が良いことだとされています。女性の賃金が低い日本では男性が長時間働いて家族を支えているのです。また、「男は脆弱であってはならない」という男のプライドがうつ病をもたらす原因ともなっており、仕事と結びつきの強い男性が抱える悩みを解決するには働き方改革が必要です。「働きすぎ」が問題視されてないことが問題なのです。問題を一人で抱え込む男性の自殺者は女性の2倍で、性別が影響しているといえます。

長時間労働が阻む男性の家事参加

週40時間以上が当たり前とされる長時間労働の中で、男性が家事育児を担うことは、現実には厳しいです。夫の家事時間は妻の

仕事の有無にかかわらず変わらないうえ、育休を取っているのはわずか2%。体調の悪い産褥期の妻のサポートさえできていません。日本は女性の我慢によって成り立っているとも言えます。男性の家事参加や女性活躍が叫ばれていますが、1つの生き方を絶対的とするのではなく、自分たちの生き方、働き方は自分たちで考え、多様な生き方の実現が認められることが大切です。

平日昼間問題とワーク・ライフ・バランス

平日の昼間に男性が街中に行くと不審者と思われるほど、「働く」イメージが強い男性は病院に行く暇もなく働き、過労死します。自分の命と仕事を天秤にかけて仕事を取るのが男性です。ワーク・ライフ・バランスの「ライフ」を「生命・生涯」ととらえ、仕事以外の人生や定年後の生き方を考えてみることも必要です。地域での居場所は、敬意を持って個人として接し、共感し合える仲間づくりをすることから生まれるのです。

ウィズカレッジ 津山さん・さん塾

2016年9月25日(日)

今や6人に1人の子ども、ひとり親世帯の54.6%が貧困状態にある日本。子どもの貧困をなくすために、親子をまるごとサポートする徳丸ゆき子さんに活動の実態を伺いました。



演題 「子どもの貧困～地続きにあるシングルマザーの貧困～」

講師 とくまる 徳丸 ゆき子 さん (NPO法人 CPAO (シーパオ) 大阪子どもの貧困アクショングループ 代表)

シーパオの活動の背景は?

大阪母子の衝撃的な2つの事件をきっかけに、「悲劇を繰り返したくない」と設立したシーパオ。国の制度は使いにくく、親は孤立し、弱い子どもにしわ寄せがきています。

「助けて!」って言ってもええんやで!

見えにくい子どもの貧困を知るために聞き取り調査を行い、そのニーズを「しらべる」。当事者を「みつめる」。人を信じる力を取り戻せるように「ほぐす」。行政や民間サービスへ「つなげる」ことを地道に行っています。

「まずは、ごはん」から個人づくりへ

日本は、食料の輸入量よりも廃棄量が多い国。うまくコーディネートすれば、子どもの居場所づくりができます。貧困の根底にはDVなどの「暴力」があります。暴力の連鎖を断つためにも、子どもたちには、いい人に早く出会ってほしいのです。

制度だけでは無理。子どもたちを中心に仕組みを作ることが大事です。キーワードは、「枠を超える」こと。最後は人が人を支えるのです。まず、声をかけてみる。誰かにつなげられるか考えてみる。支援者も孤立しない。そして、一人の子どもにでも寄り添ってほしいのです。

ウィズカレッジ 津山さん・さん塾

2016年12月4日(日)

男性も「おひとりさま」になる時代。自分自身の問題として、男おひとりさまの研究を始めたという大山治彦さんが、自身の人生とも照らし合わせ、和やかに語っていただきました。



演題 「男おひとりさまと無縁社会～たより、たよられ、生きていく～」

講師 おおやま はるひこ 大山 治彦 さん (四国学院大学社会福祉学部 教授)

無縁社会の背景

血縁、地縁、社縁等が希薄化する無縁社会といわれる今日、「孤立死」(孤独死)が増えています。その背景には、すでに機能しなくなった「家族の戦後体制」(性別役割分業など)に、いまだにこだわりすぎていることがあります。

便利な社会が「孤立」を生む

「孤立死」はまさに男性の問題です。ケア役割を担ってきた女性は身辺自立していますので、まず孤立死には至りません。しかし、仕事に専心し、ケアを女性に依存してきた男性は、生活能力が低く、ソーシャル・サポート・ネットワークも持ち合わせていません。しかも、コンビニや24時間スーパーなどのおかげで、それなりに生活ができてしまいます。そのために、結果として、「孤立死」を招いています。

新たな「縁」と「絆」を結びなおそう

男おひとりさまが幸せに生きるためには、男らしさにこだわり過ぎないこと、そして、できることから子どものころから、ケア役割を担い、生活能力をつける必要があります。また、共働きやシングルを前提とする社会制度も大切です。そして、お互いに迷惑をかけ合えるような人間関係や地域をつくることも求められます。

13人に1人ともいわれる「LGBT(*)」。身近な問題として理解を深めるために、1998年から岡山大学ジェンダークリニックに所属し性同一性障害の診療を行いつつ、学校でも性教育を通じて性別違和感を持つ子どもに向き合っている中塚さんにわかりやすくお話しいただきました。



演題 「知っておきたいセクシャル・マイノリティ (LGBT) の基礎知識」

講師 なかつか みきや **中塚 幹也** さん (岡山大学大学院保健学研究科 教授)

性のグラデーション

「性」には生物学的な性と社会的な性があります。生物学的な性 (Sex) は、①性染色体 ②内・外性器の解剖 ③性ステロイドホルモンのレベル等から決定され、「身体の性」とも呼ばれています。社会的な性 (Gender) は、①性の自己認識 (性自認) ②性役割 ③性的指向などから構成されます。このように性に関する視点は多面的であり、その組み合わせは数え切れないほどです。性の多様性が認められ、誰もが活躍できる社会が理想です。

同性愛と性同一性障害のちがいは？

同性愛では身体の性と性的指向が同じ性の状態です。性同一性障害では身体の性と性自認 (心の性) とが異なります。もしあなたが朝、目が覚めた時、身体が反対の性になっていたらどうでしょう？そして、身体の性で生きるよう強要されたら？とてもつらいことではないでしょうか。特例法の成立により、戸籍上の性別変更が可能になりました。しかし、日本では性別適合手術は自費



診療で多大な負担がかかる上、要件の中に「未成年の子どもがいないこと」が入っており、人権的に問題があると言われていました。そのような条件があっても、約6000人の人が戸籍上の性別変更をしています。

性同一性障害と子ども

性別違和感を最初に持ったのは小学校入学前という人が多いです。でも家族は気づいてくれない。3割くらいの親が気づきますが、助けてくれる親はさらに、その3割程です。身体の変化、制服や恋愛の問題などが不登校や自殺念慮につながることもあります。文部科学省も、性同一性障害に係る児童生徒にきめ細かな対応をするように通知をしています。学校や家庭の大切な役割は、言いやすい環境づくり。社会や学校でのひとは大切です。性別にかかわらず多様性を認め合う社会が、すべての人にとって生きやすい社会です。幸せとは、「ありのままに自然でいられること」なのです。

* LGBT…L：レズビアン (女性同性愛者) G：ゲイ (男性同性愛者) B：バイセクシュアル (両性愛者) T：トランスジェンダー (性同一性障害など、心とからだの性が一致しない人) の頭文字を組み合わせた言葉。性的少数者の総称の一つとして使われている。



1995年、住友メーカー3社の男女賃金差別裁判をきっかけに、WWN (ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク) を発足させ、国連やILOなどの国際機関へ向けて、日本の女性の実態を訴えてきた経験から、女性活躍の現状や今後の課題などを力強くお話しいただきました。

演題 「現代の女性活躍事情～国際的な視点から～」

講師 こえどう しずこ **越堂 静子** さん (ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク代表)

コース別制度は間接差別

入社当時、男性正社員を「総合職」女性正社員を「一般職」とするコース別人事がありました。その後、一般職から総合職への転換試験があり、「男性にも受けさせては？」と提案すると「そんなことをしたら男が落ちる」と言われました。試験に通り、総合職として配属されたのは建設部。上司は女性の扱い方が分からず、仕事を教えてくれなかったけれど、社外の人から学び、一人前の営業ウーマンに。私は総合職で昇進しましたが多くの女性はそうではありません。私たちの実態を受け止め救ってくれたのが、国連のCEDAW(女性差別撤廃委員会)です。

2003年、ニューヨークの国連で

1986年、日本は「男女雇用機会均等法」成立後、女子差別撤廃条約を批准しています。4年に一回開かれる女性差別撤廃委員会で住友電工の原告が発言する機会があり、ドイツの委員から「均等法の『指針』が異なった雇用管理区分を許容しているのは問題。低い賃金、昇進しにくい分野に女性が集中しているのは間接差別である」と日本政府へ質問が出されたのです。帰国後、この裁判は国際的に注目されている、と報告したところ、裁判所が和解勧告を出し、原告側が勝利しました。

非正規職や企業へのインタビューを通して

非正規社員の現状についても、インタビュー調査をしてみました。そこから見えて来たものは役所でさえ2ヶ月ごとに解雇と再雇用が繰り返されるという事実です。そして「派遣のくせに」「ちょっとその人」という人格無視の言葉に心が折れる、等々。50歳過ぎの派遣社員の希望は「私を名前前で呼んでほしい」という切実なものでした。

ほんまもんの女性活躍を求めて

昨年2月にジュネーブで行われたCEDAWにおいて最高裁で上告を棄却された原告たちがスピーチをしました。「均等法にセクハラ禁止及び間接差別の定義を明記すること」「選択議定書(*)の批准」などを求めた内容です。総括所見では日本政府に再々の勧告が出され、「世界が認めてくれた」と原告たち。「女性活躍」が形だけで終わってしまわないように、意見を言い続けていきたいと思います。

* 選択議定書：既存の条約を補完するために、条約とは別に独立して作成される法的国際文書。条約締約国は選択議定書を批准するかどうか選択できる。

マーケティング、産学官連携、市民活動、組織改革などの分野で、ファシリテーターやプロセスコンサルタントを務める“話し合いの達人”田坂さん。ワークショップを交えながら、すぐに実践できる「話し合いのコツ」を教えてくださいました。



演題 「話し合いのコツ、あります!~ファシリテーションの方法~」

講師 田坂 逸朗 さん (広島修道大学 ひろしま未来協創センター 講師)

未来を創造する「話し合い」

「話し合い」とは、ヒントを収集して意見を掛け合わせ、第3の意見を創造する場です。人は聞いたことは忘れるけれど、自転車の乗り方のように体験を通して身についたものは意識しなくても出来ます。「話し合い」のコツを身につけるには、「聞いたことを自分の言葉に変えて誰かに語る」ということをしてみてください。

よい話し合いの流れとは?

議題を整理した上でやわらかい対話から入ることが大切です。大人数では、皆が公式見解を述べますが、2~3人に分かるといくつもの意見が出てきます。分かれて一斉に「話し合い」が始まると会場がざわつきますが、この「パス・セッション」では、目の前の人の声だけが浮かび上がり集中力がすすほか、発言もしやすくなります。相手の話をよく聞き、意見を出しつくして全部並べてから、吟味にかけてください。板書

をすることですべてを選択肢化できます。

「納得解」に導くファシリテーション

参加者全員がファシリテーターになり得ます。全体の流れを冷静に見て、「で、どうします?」などの的確な問いかけを試みたり、言いにくいことは「間違っていたらごめんなさい」のような枕詞をつけて発言をやわらかい印象に変えてみたりするのがおすすめです。

熱意があるが故に「話し合い」は紛糾することも。それぞれが正しいと信じることを主張しますが、どんな人も部分的に見かていないもの。変える必要があるのは他人でも自分でもなく、関係性です。唯一の正解を求めてしまう困難を、「今できる最善の道を探る」との共通認識を持ってプロセスに関わり、参加者全員が、その時点でうなずける答えである「納得解」にたどり着くことに変えることが、次の行動へとつながります。

平成28年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰

平成28年11月14日(月)に平成28年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰式が県庁で行われました。

この表彰は、県内各地域において、男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であると認められ、今後も活躍が期待される個人や事業者を表彰するもので、伊原木知事から3名の方と事業者1団体に表彰状と記念品が贈られました。

知事表彰

個人の部(五十音順)

阿部 保子さん(備前市) 備前市母子寡婦福祉連合会会長

女性の市政への関心の高揚に努めるとともに、女性の地位向上などに向けた活動にも取り組んでいる。男女共同参画の推進を目的とする劇団の団員としても活躍している。

妹尾 秀子さん(倉敷市) イーブくらしきネットワーク会員

同団体の副代表、運営委員等を歴任。現在も団体運営や企画立案に取り組み、「日本女性会議」では、「貧困」をテーマとした分科会に携わるなど、団体の枠を超えて積極的に活動している。

辻 正子さん(岡山市) さんかくウィーク2001~2016実行委員

男女共同参画週間「さんかくフェスタ」「さんかくウィーク」に、毎年実行委員として参加し、事業を成功に導いた。また、交通安全母の会や愛育委員協議会などの要職を歴任。地域活動にも積極的に取り組んでいる。

事業者の部

倉敷地所株式会社(倉敷市)

男女の区別なく採用、研修を実施するなど、女性の能力活用、職域拡大に取り組んでいる。また、時短勤務、休む曜日の指定、勤務時間の指定ができる、法律を上回る育児休業制度・介護休業制度を創設しており、家庭生活と職業生活の両立ができる環境づくりを進めている。

県民生活部長表彰

氏名	住所地	功労者としての役職
小倉 毅	岡山市	さんかくウィーク2016実行委員会委員長
神崎 美佐子	岡山市	岡山市婦人防火クラブ連絡協議会副会長
西山 武久	倉敷市	イーブくらしきネットワーク文化部副部長
延本 安子	備前市	特定非営利活動法人 東備こどもNPOセンター事務局長
早田 正美	倉敷市	FMくらしき 市民制作番組「プリティウーマン」監査
森本 敏子	備前市	備前市消防団本部女性部班長
横山 三恵子	総社市	総社市男女共同参画推進審議会会長

※五十音順、敬称略



【後列左より】松尾茂樹(岡山県県民生活部長)、小倉毅、神崎美佐子、延本安子、早田正美、森本敏子、横山三恵子、有田裕(岡山県男女共同参画青少年課長)
【前列左より】阿部保子、妹尾秀子、中本正行(岡山県教育庁生涯学習課長)、井元乾一郎(岡山県議会議長)、伊原木隆太(岡山県知事)、荻野英俊(岡山県警察本部少年課長)、辻正子、小野新太郎(倉敷地所株式会社) (敬称略)

平成29年度 キャリアアップ講座のご案内

チャレンジへの一歩はここから
あなたの「働きたい」を応援します！

女性のチャレンジ支援事業として、結婚・出産・育児・介護等でいったん仕事を中断し、再就職を希望する女性を対象に**エクセル3級合格を目指したパソコン講座や就業に関する知識**等を習得する講座を開催します。また、仕事以外でも使えるパワーポイント講座も実施します。(受講料無料、但し、教材費、検定受験料は実費負担。合計約1万円)

実施期間(予定)	開催地	受付期間(予定)
6月上旬～7月中旬	津山市	5月上旬～5月下旬
9月上旬～10月中旬	岡山市	8月上旬～8月下旬
1月中旬～2月下旬	倉敷市	12月上旬～1月上旬

お問い合わせ ウィズセンター TEL(086)235-3307

映画のつどい

4月～6月の上映予定

◆4月20日(木)

「みすゞ」

◆5月18日(木)

「ウィニングパス」

◆6月15日(木)

男女共同参画週間行事

「そして父になる」

参加無料



「映画のつどい」はお申込みなしでご参加いただけます。当日の開始時刻(いずれも13:30)までにウィズセンター会議室へお越し下さい。

ご参加をお待ちしています。

※やむを得ず上映作品が変更になることがありますので、ご了承ください。



ウィズセンターは
土・日曜日も開館しています。
お気軽に、お越しください。

開館時間 火～土曜日 / 9:30～18:00
日曜日 / 9:30～17:00

休館日 月曜日・祝日・年末年始

ウィズセンターはこんなところ

- 情報提供**
 - 図書・DVD・ビデオ等の貸出
 - 人材情報・各種団体の活動情報の提供
 - 男女共同参画に関する資料の閲覧
- 各種講座**
 - 男女共同参画に関する各種講座の開催
- 相談**
 - 相談員による一般相談
火～土曜日(祝日を除く)
9:30～17:00(受付は16:30まで)
 - 特別相談(予約制)
弁護士による法律相談 原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談 原則第1・3金曜日
 - 相談専用電話 ☎086-235-3310
 - 男性相談員による男性のための電話相談
原則第2金曜日 17:00～20:00
男性相談専用電話 ☎086-221-1270
- 就業支援**
 - 就業に役立つ講座の実施
 - 就業に関する情報の提供
- 交流**
 - 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供
- 広報**
 - 情報誌の発行(年2回)
 - メールマガジンの配信(随時)
 - フェイスブックによる情報発信(随時)



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

男女共同参画に関する投稿(100字以内)をお待ちしています。選考の上、情報誌「With」等で紹介させていただきます。お名前とご連絡先電話番号を明記の上、郵送、FAXまたは電子メールにて、下記宛先までお送りください。

ウィズ70号
2017年2月発行

編集・発行 岡山県男女共同参画推進センター
(ウィズセンター)

〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1
きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階
TEL 086-235-3307(代) FAX 086-235-3306
Eメール danjo@pref.okayama.lg.jp

WEBアクセス ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

- 岡山県トップページ
- ▷ 組織で探す
- ▷ 県民生活部
- ▷ 男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

ウィズセンター 検索



ホームページ



フェイスブック